

皇居・吹上御苑の中に、中国から奪われた文化財がひっそりと隠されている。

# 中国文化財返還運動を進める会 11.11 集会

私たちは、行きたいと思う所には、自由に行けると考えています。見たいと思う〈もの〉も、自由に見ることができると考えています。しかし、実は自由に行くことができない場所があり、自由に見ることができない〈もの〉があります。その内の一つが、皇居であり、皇居にある「唐碑」あるいは「鴻臚井碑」と呼ばれている中国由来の巨大な自然石に文字を刻んだ文化財です。日露戦争後に旅順から皇居に持ち込まれました。

「鴻臚井碑」は、現在「国有財産」とされていますが、国の主権者である国民も、国民の代表者である国会議員も見ることができません。

日本が対外戦争の度ごとに得た「戦利品」は、選りすぐりの逸品（ベスト オブ ベスト）が天皇に献上されて、皇居の「御府」と呼ばれる収蔵庫に収められました。「鴻臚井碑」も、その一つです。

なぜこのような〈もの〉が、このような場所にあるのでしょうか？

今回の講演では、こうした疑問を解くために、「御府」について『天皇の戦争宝庫』と題して一書をまとめられた井上亮さんをお願いいたしました。

皆さまの奮ってのご参加をお待ちしております。

日時●2023年11月11日（土）

13時30分開場／14時～17時

場所●日比谷図書文化館4階・スタジオプラス（小ホール）

（千代田区日比谷公園1-4・03-3502-3340／地下鉄霞ヶ関・内幸町駅ほか・日比谷野外音楽堂そば）

資料代●800円

講演●井上 亮さん（日本経済新聞社編集局 編集委員）

## 「知られざる皇居の慰霊施設『御府』」

明治以降、日本が行ってきた対外戦争（日清戦争、北清事変、日露戦争、第一次大戦・シベリア出兵、満州事変・日中・太平洋戦争等）のたびに、皇居内に「御府」（ぎよふ）と呼ばれる戦利品収蔵庫が設けられた。施設設置の本旨は天皇による慰霊であり、戦死者の遺影が飾られ、天皇が日々戦没者を追悼しているという言説が広められた。戦前は靖国神社とともに戦没者の顕彰、慰霊施設の両輪であったが、戦後は皇室と戦争との関りを遮断するため、歴史から消去された。



報告●「訪中報告 文化財略奪の現場をたずねて」

\*本集会はオンラインでも参加できます。ご希望の方は下記アドレスまでご連絡下さい。

主催●中国文化財返還運動を進める会

〒105-0003東京都港区西新橋1-21-5 一瀬法律事務所

TEL. 03-3501-5558 / Mail: info@ichinoselaw.com